

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成 に要する期 間
1	6	家族の申し入れには、「規則」だからできないと伝えるだけではなく、拘束がもたらす弊害、安全確保の努力なども伝え、より一層家族の安心と理解が得られるよう言葉を尽くすことが求められる。	身体拘束等禁止となる具体的な行為をすべての職員が正しく理解し、家族に対して安心と理解が得られるような言葉がけが出来るようになる。	身体拘束をすることによる利用者への弊害や安全確保の為に会議を持ち、正しい知識を学び共有する。家族に対し行事・面会時に拘束をされた場合の痛み・ストレス・不自由等を理解してもらい、安全確保の為にしていることを伝え、安心と理解を得る。	3ヶ月
2	35	避難訓練時には消防署の協力を得て具体的な指導を仰ぎ、より安全に避難できる備えが出来ることを期待する。	利用者・職員が全員、消防署により安全に避難する場所を指導してもらうことにより、安心ができ、消防署にも避難場所を知ってもらえる。	定期的な避難訓練時に消防署より指導に来てもらう。今行っている避難訓練が適切かを見てもらいより安全な避難場所を指導してもらう。その後の訓練につなげる。	6ヶ月
3	20	少人数単位を活かしてユニット内での馴染みの関係を作っていくためにはユニットごとの職員の配置が望ましく、専従職員の確保が望まれる。	ユニットごとの職員の配置が出来るように職員の確保に取り組みより一層、利用者との馴染みの関係が深くなるようにする。	ユニットごとのリーダー・サブリーダーは固定とし非常勤勤務の職員も一応固定することにより、今以上馴染みの関係ができるようにする。	6ヶ月
4	52	折り紙の画一的な装飾が多いが、日常の暮らしの中で、利用者が自宅の延長として暮らせる住空間の装飾としてふさわしいものを今一度検討することが望まれる。	生活感のある家庭的な雰囲気がある住空間作りをし、利用者がほっとできるような装飾作りをします。	利用者と一緒に住空間の装飾について話し合いを持ち、季節感が出せ、画一的にならないようにする。	6ヶ月
5	54	利用者それぞれの好みを重視し、思いでの品や趣味の作品などを持ち込み、プライベートなスペースにその人らしい居心地の良さが感じられることが望まれる。	利用者・家族と相談し、その人らしい居心地の良い居室になるようにする。	利用者が大切にしていたもの、馴染みの物を持って来てもらったり、利用者の作ったもの等で住みよい居室作りをする。	6ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。